

Press Release #13

2011年7月12日



【本件に関するお問い合わせ先】
社団法人日本アメリカンフットボール協会
〒140-0001 東京都品川区北品川1-16-1
舟正ビル2F
TEL.03-3450-9360 FAX.03-3450-9361
E-mail: press@americanfootball.jp
Web: http://americanfootball.jp

報道各位

第4回世界選手権 オーストリア大会

日本代表 フランスに5TD奪取の快勝 カナダ戦に照準

第4回世界選手権グループBは7月11日(月)グラーツのUPCアリーナで2回戦目を迎えた。日本代表は第1試合でフランスと対戦、日本代表が35対10でフランスに勝利した。日本代表は開幕戦に続き2連勝、敗れたフランスは2敗となった。日本対フランス戦の詳細は2ページ目をご覧ください。

続いて行われた第2試合、同じグループBのカナダ対オーストリアは、カナダが36対14とオーストリアを退けた。カナダは2連勝、敗れたオーストリアは2連敗。

グループBは日本とカナダが共に2勝、優勝決定戦進出をかけて13日に両国が対戦する。地元オーストリアとフランスは共に2連敗、初勝利をかけ戦う。

一方、10日(日)インスブルックで2回戦目を迎えたグループAはメキシコとオーストラリアが対戦。メキシコが65対0の圧勝で2連勝を決めた、オーストラリアは2連敗。続いて行われた同じくグループA 2回戦はアメリカとドイツが対戦。アメリカが48対7で開幕戦に続き連勝を納めた、ドイツは2連敗。

アメリカとメキシコは共に2勝、優勝決定戦をかけて12日に対戦。ドイツとオーストラリアは共に2連敗で初勝利も目指して対戦する。

■試合結果

【グループB】

7月11日(月) @グラーツ 15:00~

Team	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
日本	7	14	7	7	35
フランス	0	0	7	3	10

19:00~

カナダ	0	0	0	14	14
オーストリア	7	7	7	15	36

日本2勝、カナダ2勝、オーストリア2敗、フランス2敗

【グループA】

7月10日(日) @インスブルック 15:00~

Team	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
メキシコ	7	21	25	12	65
オーストラリア	0	0	0	0	0

19:00~

アメリカ	7	21	20	0	48
ドイツ	0	7	0	0	7

アメリカ2勝、メキシコ2勝、オーストラリア2敗、ドイツ2敗

日本代表 5TD 奪取の快勝カナダ戦に照準

SWC グループ B の第 2 戰目は、7 月 11 日(月)に UPC アレーナに 2500 名の観衆を集めて行われ、第 1 ゲームに登場した日本代表がフランス代表を 35 対 10 で退けて 2 連勝とした。

試合は快晴で始まったが、第 1Q 中途より激しい雨に見舞われ、この間にフランス代表攻撃が再三ファンブルを犯す自滅もあった。

日本代表は立ち上がりの攻撃こそパントに終わつたものの、以後 3 度のポゼッションをいずれも TD ドライブに結びける完成度を見せつけて、前半終了時点で 21 対 0 と快調な仕上がりを見せた。

先制は 5 分 34 秒を費やして 11 プレー、71 ヤードのロングドライブを RB 丸田(鹿島)の 5 ヤード TD ランに結び付けたもの。ランとパスをバランス良く展開し、3 度あった第 3 ダウンを突破する力強さを発揮した。

追加点はターンオーバーから。フランスがパントのスナップミスから大きく後退し、敵陣 29 ヤードからの好機にランで前進を図ると、6 プレー後に再び丸田がインサイドランからこの日二本目となる 5 ヤード TD ランを決めて 14 対 0。日本代表攻撃ラインが大型ラインを並べたフランス代表守備フロントをスピードで捕え、支配下に置いた展開が印象的だった。

日本代表守備の活躍も鮮やかだった。フランス代表攻撃のラン攻撃をシャットダウンした。脇坂、山中のパナソニック DL コンビに、古庄、塚田のオービック LB コンビらが素早いリアクションでフランス攻撃の

【記者会見コメント】

◎森清之日本代表ヘッドコーチ

—オーストリア戦の勝利とどちらが重要だったか？
「オーストリア戦と同じく重要な一戦に位置付けていた。反則、ボール・セキュリティなどを含めたファンダメンタルなどで、我々の方が少しスマートなフットボールを展開できた結果だったと思う。オーストリアもフランスも共にいいチームだと思うし、双方とも我々にとって楽な相手ではなかった」

◎日本代表ゲーム MVP DL 脇坂康生(パナソニックインパルス)

—勝利の鍵は何だったか？
「カナダとフランスのゲームを見て、2007 年川崎大会からのフランスのレベルの向上に驚いていた。ミス

◎ラリー・ルゴー フランス代表ヘッドコーチ

—日本代表にいいチャレンジができたと思うか？
「どんなにいいチャレンジをしても、負けは負けだ。日本代表のように規律に溢れ、堅実なチームに対抗するにはミスがあっては勝てない。反則の多発は大き

◎フランス代表 MVP QB メキシ・スプロエル

—日本代表に対して力を発揮できたか？
「あまりにもミスが多く、悔しい結果だ。フットボールに対するディティール、プレーをやり切る姿勢、チーム

RB 勢に襲いかかった。

前半最後のドライブはフランス代表 RB キエラノに襲いかかった DL 山中がファンブルフォースし、LB 鈴木(富士通)がリカバーして自陣 37 ヤード地点からの攻撃を TD に結び付けたもの。直後の攻撃で QB 高田(パナソニック)が WR 清水(オービック)、小川(IBM)へのパスと自らのスクランブルでダウンを 3 回更新してゴール前に侵入。残り時間 26 秒、小川への右クイックフラットの 1 ヤード TD パスをヒットする鮮やかなツーミニッツ攻撃だった。

後半開始早々のキックオフでビッグリターンを許し、QB スプロエルから WR デュローへの 6 ヤード TD パスを許したもの、日本代表もすぐさま加点。続くポゼッションを率いた QB 東野(アサヒビール)が木下(オービック)、前田(鹿島)による WR モーション・スウェイプと、清水へのスクリーンパスでそれぞれ好ゲインを重ね、70 ヤードをわずか 6 プレーで TD に結びつけるドライブを展開。RB 古谷(オービック)がゴール前 3 ヤードを左オフタックルから走り抜けて 28 対 7 とした。

第 4Q 折り返し直後にフランスに FG を許したものの、その僅か 1 分後には QB 東野—前田による 34 ヤード TD パスで引き離し、35 対 10 と快勝に結びけた。

日本代表は 57 回の攻撃で 352 ヤード(平均 6.18 ヤード)、21 回のダウン更新。守っても 51 回 191 ヤード(3.16 ヤード)、11 回のダウン喪失と会心の出来栄えで、第 3 戰カナダ戦に照準を合わせた。

—カナダ戦に向けて、いかに臨むか？

「カナダは RB や WR といったスキルポジションにアスリートが揃え、ラインは大きく、とても良いチーム。タフなゲームになるのは間違いないし、我々にとって大きなチャレンジとなる。ワン・プレイ・アット・ア・タイム、ワン・ゲーム・アット・ア・ゲームを銘記して我々のベストをぶつけたい。チャンスはあると思っている」

をしないこと、しっかりアジャストすることをチーム全

体で心掛けて臨んだ結果だったと思う」

な反省点だろう。我々は日本のフィルムを見て様々な準備をしたが、この相手を下すのにはまだまだ課題が多い」

の規律、テクニックにおいて、我々が改善せねばならないことが明らかになったゲームだったと思う」

【試合の記録】

■2011年7月11日(月)UPCアリーナ■観衆 2500名■15:00開始 17:29終了

■天候=快晴から豪雨、後に快晴／27~25度■主審=ビル・レモニア

フランス	0	0	7	3=10
日本	7	14	7	7=35

【得点経過】

1Q 01:07	日本	TD	丸田 5 ヤードラン(青木キック)	0—7
2Q 05:20	日本	TD	丸田 5 ヤードラン(青木キック)	0—14
00:21	日本	TD	高田—小川 1 ヤードパス(青木キック)	0—21
3Q 07:54	フランス	TD	スプロエル—デュロー 6 ヤードパス(ニキリキック)	7—21
05:03	日本	TD	古谷 3 ヤードラン(青木キック)	7—28
4Q 11:56	フランス	FG	ニキリ 45 ヤードキック	10—28
10:58	日本	TD	東野—前田 34 ヤードパス(青木キック)	10—35

【チーム記録】

	フランス	日本
得点	10	35
第1ダウン	11	21
ラッシュ	18—12	29—115
パッシング	203	237
回数-成功-INT	33-21-0	28-19-0
総攻撃獲得距離	51-191	57-352
ファンブル-リターンヤード	0-0	0-0
パントリターン 0-0	2-33	
キックオフリターン	6-217	3-89
インターフトリターン	0-0	0-0
パント回数-平均	3-42.3	2-33.5
ファンブル-ロスト	2-1	1-0
反則-罰退距離 10-81	4-19	
ボール所要時間	23分05秒	24分55秒
第3ダウン効率 10回中4回	8回中4回	
第4ダウン効率 2回中0回	2回中1回	
レッドゾーンスコア効率	3回中1回	4回中4回

フランス代表スターイングメンバー

[攻撃]

QB	13	メキシ・スプロエル
RB	22	ディミトリ・キエラノ
WR	12	ポル・デュロー
WR	18	ジャレミー・ラボ
WR	24	ジャレミー・ラロック
WR	8	アントニー・ダブレ
OL	78	ギーオム・サリア
OL	59	アレクシス・ストロピアノ
OL	75	バスティアン・ペエレラ
OL	74	ジョン・フィリップ・エルダン
OL	79	オリビエ・ボルダン
K	15	ブルノ・ニキリ

[守備]

DL	45	ジョバニ・ノンギー
DL	77	レミー・フォルニー
DL	98	ティボ・カピテン
DL/LB	56	フランズィー・ドロレオン
LB	48	ケビン・デュミケリス
LB	52	ニコラ・プレボ
LB	5	ジュリアン・ズパルディ
DB	25	トニ・ラヤパン
DB	26	アレクサンドロ・マルキニオン
DB	3	アムドュ・ビダレイエ
DB	9	ヌノ・ドウサントス
P	15	ブルノ・ニキリ

日本代表スタートメンバー

[攻撃]

QB	8	高田 鉄男	パナソニックインパルス
RB	33	末吉 智一	早稲田大学
WR	1	木下 典明	オービックシーガルズ
WR	11	前田 直輝	鹿島ディアーズ
WR	17	小川 道洋	IBM ビッグブルー
TE	87	大矢 祐嗣	富士通フロンティアーズ
OL	67	村井 雄太	鹿島ディアーズ
OL	72	村上 崇就	IBM ビッグブルー
OL	73	谷口 祐二	パナソニックインパルス
OL	75	宮本 士	オービックシーガルズ
OL	71	小林祐太郎	富士通フロンティアーズ
K	29	青木 大介	鹿島ディアーズ

[守備]

DL	13	山中 正喜	パナソニックインパルス
DL	43	脇坂 康生	パナソニックインパルス
DL	53	平井 基之	富士通フロンティアーズ
DL	96	米田 隆之	アサヒビールシルバースター
LB	2	古庄 直樹	オービックシーガルズ
LB	9	塚田 昌克	オービックシーガルズ
LB	45	鈴木將一郎	富士通フロンティアーズ
DB	14	藤本 将司	オービックシーガルズ
DB	16	三宅 剛司	オービックシーガルズ
DB	21	加藤 公基	鹿島ディアーズ
DB	24	佐野 忠也	鹿島ディアーズ
P	2	青木 大介	鹿島ディアーズ

■ 関連ウェブサイト(情報の詳細は下記 HP でご確認ください)

大会公式サイト(英語)	http://www.americanfootball2011.com/en/
大会公式サイト(日本語)	http://www.americanfootball.jp/wc2011/
日本代表公式サイト	http://www.americanfootball.jp/japan/
日本協会公式サイト	http://www.americanfootball.jp/main/

■ 第4回アメリカンフットボール世界選手権オーストリア大会 2011 大会概要

名称 第4回アメリカンフットボール世界選手権オーストリア大会 2011
The Fourth World Championship of American Football, Austria 2011
(略号:SWC2011=Senior World Championship 2011)

主催 IFAF [International Federation of American Football (国際アメリカンフットボール連盟)]
American Football Bund Oesterreich (オーストリア・アメリカンフットボール連盟)

期間 2011年7月8日(金)~7月16日(土)

出場国 8カ国が下記2グループに分かれてのリーグ戦を経て、同順位同士による順位決定戦を戦います。

【グループA】	【グループB】
アメリカ合衆国(前回優勝)	オーストリア(欧州選手権3位・開催国)
ドイツ(欧州選手権優勝)	フランス(欧州選手権準優勝)
オーストラリア(オセアニア代表)	日本(アジア代表)
メキシコ(アメリカ大陸代表)	カナダ(アメリカ大陸代表)

試合スケジュール

7月 8日(金)	① アメリカ×オーストラリア	② ドイツ×メキシコ	@インスブルック
7月 9日(土)	① オーストリア×日本	② フランス×カナダ	@グラーツ
7月 10日(日)	① メキシコ×オーストラリア	② ドイツ×アメリカ	@インスブルック
7月 11日(月)	① 日本×フランス	② カナダ×オーストリア	@グラーツ
7月 12日(火)	① オーストラリア×ドイツ	② アメリカ×メキシコ	@インスブルック
7月 13日(水)	① カナダ×日本	② オーストリア×フランス	@グラーツ
7月 15日(金)	① 7位決定戦	② 3位決定戦	@ウィーン
7月 16日(土)	① 5位決定戦	② 優勝決定戦	@ウィーン

* 試合開始時刻 第1試合:15時開始 第2試合:19時開始(現地時間)

* 試合会場
インスブルック Tivoli Stadion(収容人数 16,000人)
グラーツ UPC Arena(収容人数 15,400人)
ウィーン Ernst Happel Stadion(収容人数 50,800人)

WC2011公式サイト <http://www.americanfootball2011.com/en/>

【これまでの「アメリカンフットボール世界選手権」について】

第1回大会は、1999年イタリア・パレルモにおいて開催。その後、第2回大会が2003年ドイツ・フランクフルト、第3回大会が2007年日本・川崎市にて開催された。日本は第1回、第2回にて連続優勝し、第3回では準優勝。なお、第3回よりこの競技の母国であるアメリカが出場し、優勝を飾った。

詳細は大会公式ホームページ(日本語) [過去の大会]をご参照ください。

【IFAFについて】



国際アメリカンフットボール連盟

IFAF(International Federation of American Football=Tommy Wiking 理事長)は、1998年に創立、翌99年イタリアのシシリー島パレルモ市に6カ国が集って第1回世界選手権大会が開催され、過去3大会を通じて世界各地で加盟国の輪を広げてきた。

設立当初25カ国だったIFAFは、現在PAFAF(環太平洋連盟16カ国)、EFAF(欧州連盟32)、AFAF(アジア連盟5)、OFAF(オセアニア連盟3)の4地区が加盟し、今春これに加えてナイジェリアを起点とした待望のアフリカ大陸連盟が創立、59カ国の参加する組織としてその規模を拡大している。

IFAF公式サイト:<http://www.ifaf.info/>